

登録コード	MA751000	開講年度	2026				
授業科目名	神経呼吸免疫科学特論					担当教員	矢崎 正英 他
英文授業名	Special Lectures in Neuro-Respiratory Immunology					副担当	安尾 将法
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	木曜・6時限 木曜・7時限	対象専攻／学年	病因・病態検査学領域／1年次
講義室	保健学科121講義室		授業形態	講義	授業科目区分	選択科目	
信大コンピテンシー	該当						
(1)授業の達成目標	【ディプロマ・ポリシー】授業で得られる「学位授与の方針」要素						
	MS26カリ(保健学), MS25カリ(保健学), MS24カリ(保健学), MS23カリ(保健学)						
	【保健学】高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。					免疫性神経疾患および免疫性肺疾患をはじめとした神経難病およびアレルギー性呼吸器病の発症機序について論理的に考えることができるようになる。	
(2)授業の概要	最近、難治性疾患が増加する傾向にあり、その多くは発症機序が不明であり、診断・治療法の確立が急がれている。本講義では免疫性神経疾患における発症機序について概説し、神経疾患と免疫異常の関連について論議する。呼吸器に関しては、気管支喘息、過敏性肺炎、膠原病肺などの免疫性肺疾患の病態について概説し、免疫機序のどこが異なるのかについて講義する。さらに各自が行っている研究テーマに関連した論文の内容のプレゼンテーションをおこない、皆でディスカッションする。 本事業は担当教員の神経内科学・呼吸器内科学における医師としての実務経験を生かし講義をおこなう。						
(3)達成目標（一般学習目標GIO）	免疫性神経疾患および免疫性肺疾患をはじめとした神経難病およびアレルギー性呼吸器病の発症機序について論理的に考えることができ、問題点を探り、それを解決するための科学を探究する力を身につけることができるようになる。						
(4)達成目標（個別行動目標SBOs）	1．免疫性肺疾患について代表的な疾患について説明することが出来る。 2．免疫性神経疾患について代表的な疾患について説明することが出来る。 3．免疫性肺疾患について、呼吸生理、分子生物学の論文を批判的に読む力をつけ、論文の内容についてすぐれたプレゼンテーションが出来る。 4．免疫性神経疾患について、神経科学、分子生物学の論文を批判的に読む力をつけ、論文の内容についてすぐれたプレゼンテーションができるようになる。						
(5)授業計画	矢崎正英） 第1回（10月1日）イントロダクション 第2回（10月8日）免疫性神経疾患概説 第3回（10月15日）論文プレゼンテーションとディスカッション 第4回（10月22日）論文プレゼンテーションとディスカッション 第5回（10月29日）論文プレゼンテーションとディスカッション 第6回（11月5日）論文プレゼンテーションとディスカッション 第7回（11月12日）総括 （安尾将法） 第8回（11月19日）イントロダクション 第9回（12月3日）自己学習 第10回（12月10日）免疫性肺疾患の分類と喘息、膠原病肺、 第11回（12月17日）論文プレゼンテーションとディスカッション 第12回（12月24日）論文プレゼンテーションとディスカッション 第13回（1月7日）自己学習 第14回（1月14日）論文プレゼンテーションとディスカッション 第15回（1月21日）総括						
(6)授業の進め方	スライドプレゼンテーションによる講義を前半におこない、中から後半は、実際に論文を読み、プレゼンテーションをおこない、論文の問題点および新たな解決方法についてディスカッションする。						
(7)履修上の注意・事前事後学習の内容	事前の講義については、スライドのPDFがe-Alpsにアップされているのでそれを見て、参考書、インターネットで事前学習をおこなう。与えられた論文については事前に学習し、その内容と問題点についてプレゼンテーションできるように準備すること。 事後学習については、質問やレポート作成に対応できるようにする。						
(8)成績評価の方法	プレゼンテーションの内容と口頭試問により評価する。						
(9)成績評価の基準	1) 授業内容の質問に対する解答が的確、2) 英文論文の理解度とプレゼンテーションの質が良好、3) 積極的にディスカッションに参加する姿勢について総合的に評価をして、かつ、教員を感動させるレベルにあれば「卓越している」(秀)と評価する。また、1)～3)の3項目を満たしていれば「かなり上にある」(優)、2項目が標準以上まで出来ていれば「やや上にある」(良)、1)、2)項目が標準まで出来ていれば「水準にある」(可)と評価する。						
(10)学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	オフィスアワーと連絡先： （安尾将法） 個別の相談は事前の連絡（e-mail：yasumasa@shinshu-u.ac.jp）によって随時、対応する。 （矢崎正英） 個別の相談は事前の連絡（e-mail：mayazaki@shinshu-u.ac.jp）によって随時、対応する。						

【テキスト，教材，参考書】	内科学（朝倉書店第9版），Cell，分子生物学
---------------	-------------------------